

決議文

「陸域と海域のつながりを重視した地域コミュニティが主体となったサンゴ礁保全及び管理に向けた統合的アプローチの推進に係る決議」

第29回ICRI総会（平成26年10月20～23日）が開催された沖縄では、裾礁タイプのサンゴ礁が発達していることを銘記し、

裾礁タイプのサンゴ礁は、とりわけ陸域からの影響が強く、その保全には、陸域における人間活動とそれによる影響を考慮することがことさら重要であることを認識し、

特に、サンゴ礁及びそれをとりまく生態系を管理していくため、海と陸のつながりや人為的ストレスの影響を認識するとともに、ICRIの基軸である統合的管理を推進し、

ベリーズにおける第28回総会で採択された、「サンゴ礁及びそれを取り巻く生態系の管理に向けた海洋保護区及びその他の仕組みのための協働型管理の活用に関する決議」を想起し、

海洋環境を陸上活動による影響から保護するための地球行動計画（GPA）を想起し、

2011年に発行された、集水域管理に係る11の行動提案を紹介したGCRMNレポート「集水域管理とサンゴ礁の保全—優良事例及び事例研究に基づく集水域由来の被害の減少を目的とした沿岸資源管理者のための実用ガイド—」を想起し、

生物多様性条約第12回締約国会議において採択された、愛知目標10の達成に向けた、サンゴ礁及び周辺生態系の最優先行動を含む、海洋及び沿岸生態系に関する決議を銘記する。

上記に基づき、ICRIはメンバーに次の行動を奨励する。

海と陸のつながりを重視した、地域コミュニティが主体となったサンゴ礁保全や管理への統合的アプローチの有効性を考慮し、

第29回総会でのテクニカルワークショップやGCRMNレポートで報告された、裾礁保全のための集水域管理の事例から得られた教訓を活かし、

保全対象のサンゴ礁に関連する集水域の保全と管理を一体化して推進する地域コミュニティにおいて、保全と管理の取組の促進に係る利害関係者間の取り組みを促進するとともに、

関連する会議や組織、または推進共同体が提供する場を通し、情報や経験の共有に貢献する。

上記に基づき、ICRIは事務局に次の要請をする。

提出されたICRIメンバー報告書から、海と陸のつながりを重視した、地域コミュニティが主体となって進めるサンゴ礁保全管理への統合的アプローチに関する事例を収集し、それらについてGCRMNレポートを参考にとりまとめ、

タイで開催される第30回総会において、上記に基づき、とりまとめた事例について報告し、

とりまとめた情報について、ICRIメディアや、他の有効且つ適切なメディアを通し、発信する。

上記に基づき、ICRIはメンバーに次の要請をする。

事務局の要請に基づき、すでに提出されているメンバー報告書に加え、さらなる情報の提供を通じて、事例のとりまとめを支援し、

長期的利益をもたらす、地元のコミュニティによる陸から海への連続性に重点を置いたサンゴ礁保全や、管理への類似の統合的アプローチの展開を奨励し、

とりまとめた事例の普及にあたって、ICRI事務局を支援する。

以上、平成26年10月20日～23日に沖縄で開催された、第29回ICRI総会において決議とする。



サンゴ礁を保全する地域コミュニティ
～陸域とサンゴ礁のつながりの視点から進められた8つの取組事例とその考察～

発行者：環境省自然環境局
住 所：〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2
共同編集制作：WWFジャパン
出版年：2016年2月

・本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
・本書の内容の一部または全部の引用、複製などの2次利用は自由ですが、本書の内容を著作物に引用（転載）する場合には書名を明記してください。
・本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。